

町田第三小学校跡地活用検討について

本町田地区の新たな学校づくりで 2028 年度に学校跡地となる町田第三小学校の次の活用について、2022 年度から検討を進めています。

この検討状況について、2024 年 9 月以降の進捗をご報告します。

1 町田第三小学校跡地活用ワークショップ開催結果

- ・ 開催日:2024 年 10 月 19 日、12 月 14 日、
2025 年 2 月 8 日(全 3 回)
- ・ 参加者数:44 名(延べ)
- ・ 実施結果:別紙のとおり



2 今後の予定

2025 年度は、以下のとおり検討を進めます。

- 町田第三小学校跡地活用連絡協議会開催(6 月、9 月、12 月、2 月頃を予定)
町田第三小学校周辺の町内会自治会などの地域を代表する方に、活用検討状況を共有するとともに、跡地活用に関する意見交換を行うため、年 4 回程度開催します。
- 町田第三小学校跡地活用に関するサウンディング型市場調査実施(6 月～7 月頃)
市民サービスの向上や安定的な財源確保の観点から、民間活力導入による整備・管理の可能性等を調査します。
- 市民ワークショップ開催(実施時期:10 月～11 月頃)
2024 年度に引き続き、市民理解を得ることや、実際の活用にあたって市民の意欲を高めることを目的としたワークショップを開催します。
- 「町田第三小学校跡地活用コンセプトブック(仮称)」策定(2026 年 3 月)
活用の方向性を市民に伝わりやすくデザインした「町田第三小学校跡地活用コンセプトブック(仮称)」を策定します。

【活用開始までの想定スケジュール】





町田第三小学校跡地活用ワークショップ

～町田第三小学校跡地の未来をみんなで一緒にわいわい考えよう～

実施記録

2025 年 3 月

町田市

～ 目 次 ～

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 学校跡地活用の検討について・・・・・・・・	1
2. 町田第三小学校跡地活用の検討・・・・・・・・	1
(1) 町田第三小学校跡地の検討・・・・・・・・	1
(2) 町田第三小学校跡地活用検討の進め方・・・・・・・・	1
3. 町田第三小学校跡地活用ワークショップ・・・・・・・・	2
(1) 目的・・・・・・・・	2
(2) 参加対象者・募集人数・・・・・・・・	2
(3) 各回の主な内容・・・・・・・・	2
(4) 第1回ワークショップ～学校探検をしよう!語り合おう!～・・	3
(5) 第2回ワークショップ～跡地活用プランをつくろう!～・・・・	10
(6) 第3回ワークショップ～跡地活用プランを発表しよう!～・・・・	17
4. 町三小跡地活用に向けたメッセージ・・・・・・・・	26
5. アンケート結果・・・・・・・・	27
6. 各組の検討成果(学校跡地活用プランとイメージスケッチ)・・・・	29
(1) 1組 体験を通じて 世代を超えて「遊べる場」・・・・	30
(2) 2組 ゆったり過ごそう みんなの居場所・・・・・・・・	32
(3) 3組「あ!ここに行こう!」地域のいこいと交流の場 ～みんなのサードプレイス～・・・・	34

1. はじめに

(1) 学校跡地活用の検討について

町田市では、2021年5月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく市立小・中学校の統合によって閉校となる学校の跡地活用の検討を行っています。

学校は、教育活動の場としてだけでなく、災害時の避難施設など、地域住民にとって、地域の状況に応じた地域の活動の場としても身近な場所となっています。

そういったことから、学校跡地の活用は、町田市が策定した「市有財産の戦略的活用に関する基本方針」※¹に加えて、地域にとって必要な機能を統合新設校や周辺施設等へ引き継ぐことなどを示した「学校跡地の活用に関する基本的な考え方」※²を基に検討を進めていくこととしています。



町田市新たな学校づくり推進計画

※¹：市有財産の処分を含めた効果的な利活用を図ることを目的に町田市が2009年4月22日に策定。

※²：学校跡地活用の検討にあたり、「市有財産の戦略的活用に関する基本方針」に加えて、地域にとって必要な機能を統合新設校や周辺施設等へ引き継ぐことなどを示した基本的な考え方。町田市が2022年3月に策定。

2. 町田第三小学校跡地活用の検討

(1) 町田第三小学校跡地の検討

本町田地区の新たな学校づくりで2028年度に学校跡地となる町田第三小学校の次の活用の検討は、「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく新たな学校づくりの基本計画の検討着手とあわせて、2022年度から検討を開始しています。

(2) 町田第三小学校跡地活用検討の進め方

町田第三小学校跡地活用の検討にあたっては、町田市が必要と考える機能を地域のみなさまにお示しするとともに、地域のみなさまがどのようなご意見をお持ちなのかをお聞かせいただきながら、検討を進めます。

2030年度以降の活用開始を目指し、以下の想定スケジュールで検討を進めています。

■活用開始までの想定スケジュール



3. 町田第三小学校跡地活用ワークショップ

(1) 目的

町田第三小学校跡地の未来について、みんなで考えるワークショップ（町田第三小学校跡地活用ワークショップ）は、町田第三小学校跡地の活用（使い方）のイメージやアイデアをワークショップ参加者同士で考え、いくつかの町田第三小学校跡地活用のコンセプト案をまとめることを目的として、全3回シリーズ（2024年10月19日（土）、12月14日（土）、2025年2月8日（土））で開催しました。開催しました。



ワークショップ開催案内

(2) 参加対象者・募集人数

町田第三小学校の周辺にお住まいの方、町田第三小学校跡地で活動したい方等、30人程度
※親子参加歓迎。一時保育あり。

(3) 各回の主な内容

実施日程		主な内容	詳細
第1回	日時： 2024年10月19日（土） 9:30～12:00 会場： 町田第三小学校ランチルーム	【学校探検をしよう！語り合おう！】 ○学校探検 ○ワークショップ テーマ1：町三小の魅力を見つけよう テーマ2：町三小跡地で将来やってみたいこと	P3～P9
第2回	日時： 2024年12月14日（土） 10:00～12:00 会場： 町田第三小学校ランチルーム	【イメージをふくらまそう！】 ○ワークショップ テーマ1：町三小跡地の活用プランをつくろう テーマ2：避難施設になった時のことを考えよう	P10～P16
第3回	日時： 2025年2月8日（土） 10:00～12:30 会場： 町田第三小学校ランチルーム	【発表しよう！】 ○提案の仕上げ テーマ1：町三小跡地の活用プランを仕上げよう テーマ2：どう運営するか考えよう テーマ3：活用スタートまでに、何ができる？ ○最終発表	P17～P25

(4) 第1回ワークショップ ～学校探検をしよう!語り合おう!～

【日時】

2024年10月19日(土)

9:30~12:00

【会場】

町田第三小学校ランチルーム

【参加者】

15名

【プログラム】

○開会あいさつ

○全体説明

・跡地活用のこれまでの経緯

・ワークショップの目的

○学校探検

○グループごとのワークショップ

テーマ1: 町三小の魅力を見つけよう

テーマ2: 町三小で将来やってみたいこと

○グループごとの発表

■説明(跡地活用のこれまでの経緯、ワークショップの目的)

町田市から、本町田地区に新しくできる本町田ひなた小学校の検討と合わせて2022年度から町田第三小学校跡地の活用検討をスタートしていることや跡地活用検討の前提となる基本的な考え方、これからの進め方、今回のワークショップの目的などを説明しました。

町田第三小学校がこれまで担ってきた避難施設の機能は、町田第三小学校跡地で引き継いでいくことをお伝えしました。



全体説明

■学校探検



学校探検スタート

全体説明の後、3つのグループ(1組~3組)に分かれて町田第三小学校の敷地を実際に見て回りました。探検のポイントが書かれた「探検マップ」を手に探検しました。

この小学校に詳しい参加者のお話も聞きながら、発見した町田第三小学校の魅力を手元の地図に書き込みました。

■グループごとのワークショップ

学校探検の後、各グループに分かれてグループワークを開始しました。

「町三小の魅力を見つけよう」、「町三小跡地で将来やってみたいこと」の2つのテーマで、意見や思いを出し合いながらまとめました。



グループワークの様子

1 組

地域のランドマーク、地域のつながりの場

◇「町三小の魅力」 ～地域のランドマーク～

1 組では、『町三小は高低差があり、敷地の形があまりよくないので、土地の活用は工夫が必要だけど、自然・緑が豊富であることが魅力』といった意見にはグループのメンバーもうなずいて共感していました。また、『この場所は高台にあり遠くからも目立つランドマークのような場所であり、地域をつなげる役割を果たしている』という発言は、この地域の方のこの土地に対する思いを象徴づけるような意見となりました。他にも、『タケノコが採れる』こと、『歴史がある』こと、『遊具があり、坂などでも運動ができる』ことも魅力としてあげられていました。

◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」 ～地域のつながりの場～

地域で集まる場や不登校児を含めた子どもの居場所など、町三小跡地を「地域のつながりの場」とするためのアイデアがたくさん出されました。その他にも、豊かな自然環境と敷地の高低差を利用したアスレチックやタケノコ掘りイベントなど、「遊び・体験の場」といった楽しみながら学ぶアイデアもたくさん出ていました。

■町三小の魅力

【町三小の魅力】

- 地形に高低差があり、敷地の形が整形ではないため、工夫が必要であることが指摘されました。
- 高低差とともに、自然・緑が豊富であることから多くの参加者から魅力として挙げられました。
- また、高台にもあり、遠くからも目立つ場所になっており、地域のランドマークでもあり、地域を繋げている場所という意見が出されました。
- そのほかに、タケノコが採れること、歴史があること、遊具があり、（坂などで）運動もできることも魅力として挙げられました。

運動ができ、遊具もあって楽しい場所！

- ・ 坂があって運動ができ、楽しい場所
- ・ 遊具がいっぱいある
- ・ 昔は竹馬の練習をよくした記憶がある
- ・ 小学生だけでなく、幼児も遊べる環境

遠くからも目立つランドマークになっており、地域をつないでいる

- ・ 地域と地域を繋げる場所にある
- ・ 地域みんながわかる場所
- ・ 入口がたくさんあってアクセスしやすい
- ・ 高台にあるので眺めが良い
- ・ 高台になっている

歴史・文化があり、引き継いでいきたい

- ・ 歴史がある。
- ・ 石碑があり、歴史がある。何らか残して引き継いでいきたい。

地形(高低差、敷地の形)が特徴的であり、工夫が必要

- ・ 高低差がある
- ・ 敷地が広いが、広すぎない(高低差があるので区分して利用できる)

(以前は)敷地内を通れており、お散歩に適していた

- ・ 敷地内に小道ができそう。お散歩に適している

タケノコが食べられる！まさに食育！

- ・ タケノコが食べられる
- ・ 竹やぶがありタケノコが採れる
- ・ 竹がいっぱいある。

自然・緑が豊富である

- ・ 木が多い
- ・ 木が大きい
- ・ 自然が豊か緑が多い
- ・ 古くからある樹木
- ・ 川に囲まれている
- ・ 川があり、活かしたい

■町三小の跡地で将来やってみたいこと

【町三小の跡地で将来やってみたいこと】

○1組では、前半で議論した町三小の魅力を活かして将来やってみたい、いろいろなアイデアが集まりました。

地域の繋がりの場

歴史

- 本町田歴史館(バーチャル形式)
ハコモノではない歴史を感じる場。

地域で集まる場

- コミュニティセンター
地域の真ん中にある
子どもたちが集まる場、三小の
歴史展示など色々な使い方が
できる場所

子どもの居場所

- 不登校児の居場所
子どもが本音を話せる、
常にSSWがいる場所
- こどものシェルター

まんが図書館

日本の誇れる文化に手
軽に触れられる

災害時の避難場所

避難場所を確保してほしい。マンホールトイレ、電気施設、備蓄倉庫などが浸水想定範囲内にあり、移動が必要

水を活かす・親水空間

- ビオトープ的なもの
生き物の観察ができる(蛍が飛ぶ!?)
- 釣り堀
綺麗な川の水で魚を釣る

自然環境 の活用

タケノコ掘りイベント

- 調理をして、食べ
られる場所
タケノコをみんなで
掘って、食べたい

遊びの場

- ボール遊びができる場所
制限なく遊べる場所が少ない
野球、サッカーの屋外球技
- 自転車練習
町田には交通公園がない
- フィールドアスレチック
高低差を利用した遊び場
屋外アスレチックができる
ジャンボ滑り台
遊びの幅を広げられる
自然体験できる
- 遊園地

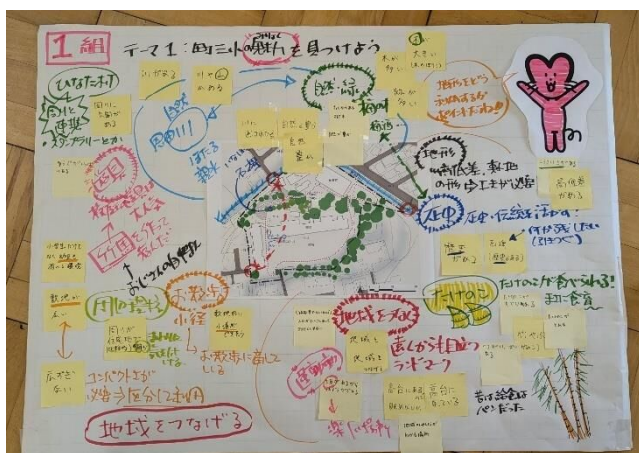
調理・食事 の場

畑を作って野菜を育てる

- 畑・農園
みんなでいろいろな野菜を育て
て、一緒に食べたい
梅を埋めジュースにするなども

遊び・ 体験の場

■当日の検討結果



テーマ1：町三小の魅力

テーマ2：町三小の跡地で将来やってみたいこと



2組

コミュニティの中心、世代間交流が生まれる場所

◇「町三小の魅力」 ～コミュニティの中心～

2組は、ほとんどのメンバーから、校庭のある場所は『高台にあって日当たり、見晴らしがよい』、『高台の地形と敷地の高低差が魅力』といった意見がでていました。その他にも、『地域のコミュニティの中心である』ことや、『敷地内のタケノコなど自然豊かな環境が魅力』といった意見もあげられていました。

◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」 ～世代間交流が生まれる場所～

子どもが自由に遊ぶことができたり、親も昼寝ができたり、気軽に休める場所といった意見や、大人と子どもと一緒に何かできるような「世代間交流が生まれるような場所」にしたいというアイデアが出されていました。現役の小学生や子育て世代、地域で活動されている方など様々な世代の方が集まった今回のワークショップならではのアイデアでした。

■町三小の魅力

【町三小の魅力】

- 参加者のほとんどの方が、小学校の校庭について「高台にあって日当たり、見晴らしがよい」など、高台の地形と高低差を「魅力」としてあげていました。
- また、「住宅地の中心にあって落ち着いた環境にあり、出入口もたくさんあって人が来やすい」「住民の中心になる場所」など、小学校の立地も含めたコミュニティの中心であることを大きな「魅力」としました。
- その他にも「自然が豊かで川に近い」「敷地内で採れるタケノコごはんがおいしい」など、自然豊かな環境が「魅力」としてあがりました。

安全

- ・ 大きな道路から離れているため、車が入りづらく安全で静か

住宅地の中心・コミュニティ

- ・ 入り口がたくさんあり、地域の人々が来やすい
- ・ 周辺の住宅街と調和した、落ち着いた雰囲気
- ・ 地域の盆踊りも開催される場所
- ・ 住民の中心になる場所

教室が好き

竹の子

- ・ 敷地内の竹やぶで採れるタケノコを使用した竹のご飯が給食で食べられ、おいしい

ひなた村

- ・ 近くにひなた村がある

自然・緑・恩田川

- ・ 緑が多く、自然が豊か ・ 竹やぶがある ・ 川が近い

高低差

- ・ 敷地内で高低差があり、今後の活用を考えても多様性がある
- ・ 高低差があるので、敷地内の移動が良い運動になる

高台・見晴らし

- ・ 高台で日当たりがいい ・ 高台のため涼しい
- ・ 敷地が高いので見晴らしが良い
- ・ 空が近く、広い

■町三小の跡地で将来やってみたいこと

【町三小の跡地で将来やってみたいこと】

○2組では、前半で議論した町三小の魅力を活かして将来やってみたい、いろいろなアイデアが集まりました。

災害対策の場

防災・キャンプ

- 地震にも水害にも対応できる場所
- 避難施設を兼ねたキャンプ場
- 恩田川の水を災害時に利用する

川で遊ぶ

- 恩田川を活用
- 川遊び

アスレチック・公園

- 高低差を活かしたアスレチック

高低差を活かす

高齢者が楽しめる場所

- 高齢者が楽しめる場所

世代間交流の場所

コミュニティセンター

- 大人と子どもが一緒に何かできるような施設

ゆったり過ごせる

アウトドア広場

- 空を見られる広場
- 流星群の観望会
- ポーッとする大会
- 屋外ピクニック・キャンプ
- 静かに読書
- 日なたで寝る

広場の使い方

いろいろな使い方ができる場所

- みんなが使える公園・広場
- 球技や花火などもできる自由な場所
- 盆踊りや祭りなど地域の活性化につながることもできる場所
- 遊園地

ママも安らげる子育て施設

- 子育て支援施設
 - ・児童館や子ども食堂など、子育て支援につながる
- お昼寝の場所
 - ・子連れで来ても昼寝できるなど、親が自由になれる場所
 - ・育児中の親の孤立化を防ぐ
 - ・子どもたちが安全に遊べる場所

農や食の体験

農や食が体験できる場所

- 竹のこ掘りや焼き芋大会など、食育
- 大人と子どもで農作物を育てる畑

周辺とつながる

ひなた村と連携する

敷地の中を通り抜けられる

- 小学校の南側から北側へ行くときなど、敷地内を通り抜けられると良い

■当日の検討結果



テーマ1：町三小の魅力



テーマ2：町三小の跡地で将来やってみたいこと

3組

竹・森、自然に囲まれた環境、誰もが思い思いに過ごせる場所

◇「町三小の魅力」 ～竹・森、自然に囲まれた環境～

3組は、敷地周辺や斜面を覆う『竹林や森、自然に囲まれた環境が、落ち着いた雰囲気があってとても良い』など、自然がこの場所の魅力といった意見がたくさんあげられていました。その他にも、『子どもが安全に遊べそうな場所』、『高台にあって見晴らしがよい立地』、『高低差があるからこそ2つの敷地を確保できる』、『斜面だからこそいろいろな使い方ができそう』、『歴史のある地域』などの魅力があげられていました。

◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」 ～誰もが思い思いに過ごせる場所～

「校庭部分を誰もが思い思いに過ごせる屋外スペースとして活用する」といったアイデアが出されていました。ボールも使える運動広場でありつつも、お祭りやフリーマーケットなど地域のイベントの場としても活用できるようにしたいなど、「みんながやりたいことをやれる場所」、「ここに来れば楽しいと思える場所」にしたいという思いが溢れたアイデアが出ていました。

また、3組では、施設を運営していくにはお金がかかるので、一部をコインパーキングにするなどして、運営費を生み出す必要もあるといった先を見越したご意見もありました。

■町三小の魅力

【町三小の魅力】

- 参加者の方から「魅力」として多く意見が挙がったのが、敷地周辺や斜面を覆う「竹林や森」で、「自然に囲まれた環境が、落ち着いた雰囲気があってとても良い」などの意見が挙げられました。
- また、「子ども達が安全に遊べそうな場所」「高台にあって見晴らしがよい立地」「高低差があるからこそ2敷地を確保できる」「斜面だからこそいろいろな使い方ができそう」「既に利活用できる環境が整っている」「歴史のある地域」など、たくさんの意見があがりました。

竹、森など自然が豊かな環境

- ・ 竹林や森があって、落ち着いた雰囲気がある
- ・ 竹林が落ちつく
- ・ 竹林など、自然に囲まれている

1敷地の中で広いスペースが2か所確保できる

- ・ 高低差があることにより、広いスペースを2か所確保することができ、利用方法を分けることができる。

多方面からアクセスしやすい立地・設備が整っている

- ・ 入口が複数あって、アクセスしやすい
- ・ 人が集まるのに必要な駐輪場スペースあり

斜面などの地形を活かしていろいろな使い方ができそうな場所

- ・ 斜面をおもしろさに変えられないか
- ・ 斜面であるからこそ、陽ざしがあたり、花壇や実りのある果物づくりができるのではないか
- ・ 地形を活かして様々なアイデアを入れられる
- ・ 南側の敷地境界部分の有効活用

利活用するためのインフラが整備済

- ・ 上下水道が整備済みのため、多用途で活用できそう
- ・ 防災用マンホールトイレも整備済

子どもたちが安全にのびのびと遊べそうな場所

- ・ 少し高台にあるので、人が集まっても子どもが集まっても「うるさい！」と言われなさそう
- ・ 校庭一面が見渡せるため、安全に遊びを見守ることができる(見えない場所がない)

高台にあり見晴らしがよい立地

- ・ 高い場所にあるので、見晴らしがよい
- ・ 高台にある場所。見晴らしの良いところ(周辺の本々を整理したら、違う風景が見える?)
- ・ 周囲の景色がきれい

小学校も近隣も、歴史がある

- ・ 町三小には歴史がある
- ・ 本町田地域は、菅原神社等の歴史遺産が多い

■町三小の跡地で将来やってみたいこと

【町三小の跡地で将来やってみたいこと】

○3組では、前半で議論した町三小の魅力を活かして将来やってみたい、いろいろなアイデアが集まりました。

災害時にも活用できる室内空間

- 簡易な体育館
災害時の避難場所
エアドーム型？
- 本町田の歴史資料館+地域活動の場
各家庭にある歴史資源の保管、地域の歴史・町三小の歴史を体験学習
地域の活動の場も兼ねる

多世代で集まる空間

- 子どもとお年寄りの食堂
ワタミなど民間参入で、収益

校門近く:駐車場

誰でも、いつでも、遠方からもアクセスできる環境づくり

- コインパーキング
高齢者、障がい者、小さな子ども連れも利用できる！収益もみこめる

低地

万が一の水害でも被害が少ない活用を

- スケボー広場、プレボー広場(アスファルト敷設)
- バスケットゴール
- ドッグラン(芝生を活用)

斜面:遊び・癒し

斜面を活かした活用を

- 本町田の花壇 花壇をつくり、周りを散策路
- 大すべり台
近くに既存の遊具を移設して再利用

校庭:思い思いに過ごせる場

広さを活かして、みんなで活用できる屋外スペース

- 運動広場
ポールが使える広場
小学生用のサッカー
ゲートボール マレットゴルフ
- みんなで集まることができる場所
イベント フリーマーケット
お祭り 運動会
- アスレチック

- 高台を活かした物見塔
- 四方を見渡せる物見塔

校庭脇: 健康維持・ くつろぎ

お年寄りの健康維持

- 健康器具の設置
- ベンチで休憩
- リハビリ施設
民間事業者参入による収益も

子ども達が自由に集まり遊べる場を

- 学童保育の代替施設
子どもをサポートする機能とセット

■当日の検討結果



テーマ1: 町三小の魅力

テーマ2: 町三小の跡地で将来やってみたいこと



(5) 第2回ワークショップ ～跡地活用プランをつくろう！～

【日時】

2024年12月14日（土）
10:00～12:00

【会場】

町田第三小学校ランチルーム

【参加者】

15名

【プログラム】

○はじめに、本日のスケジュール

○説明

- ・第1回ワークショップの振り返り
- ・第2回ワークショップの参考事例紹介、避難施設について、市民アンケート結果 等
- ・本日のワークショップの進め方

○グループごとのワークショップ

テーマ1：町三小跡地の活用プランをつくろう！

テーマ2：避難施設になった時のことを考えよう！

○グループごとの発表

○集合写真

■説明（参考事例紹介、市民アンケート結果、避難施設についてなど）

町田市からグループワークに参考になる事例の紹介をしました。

また、8月に実施した「町田第三小学校跡地活用等に関する市民アンケート」の速報や、学校跡地でも引き継ぐ避難施設機能の考え方についても確認をしました。



説明の様子

■グループワーク

全体説明後、前回と同様に3つの組に分かれてグループワークを行いました。町田第三小学校の敷地図の上に、前回出た「町三小跡地で将来やってみたいこと」を具体的に配置していきました。必要な場所や広さを考えながら、やってみたいことのイメージ写真や図面を地図に貼りながら、想像を膨らませ、活用プラン（案）を作成しました。

活用プラン（案）は、平常時の使い方をメインにしながら、災害時にその場所を避難施設としてどう使うか、「平常時」と「災害時」の2つの視点でグループワークを進めました。



熱のこもったグループワーク

■検討結果

各組の活用プラン（案）で、どの組でも共通していたことは、南側の敷地の高い場所を芝生広場とし、その西側に建物を配置していたこと。芝生の広場は、いろんな人がいろんなことに使うことができ、お祭りなど地域の活動の場としても活用できる場所として各組が提案していました。配置する建物の大きさにはグループごとに差がありましたが、建物内にみんなでシェアできるキッチンを備えるなど、地域のコミュニティを育む場にしたいという意見は共通していました。

北側の敷地の低い場所の使い方は、組ごとに様々なアイデアが盛り込まれたプランになりました。



意見を出し合いながら活用プラン（案）を整理

1組

この場所が、ここでできる体験が、地域・世代を『つなぐ』

◇全体の配置

北側の敷地の低い場所では隣を流れる恩田川を活かし、「水や自然とのふれあいができる場所」にして、南側の敷地の高い場所では、子どもや大人が使える「遊具・健康器具」の設置や、様々な使い方ができる「芝生広場」、「コミュニティ施設」を設ける提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・水や自然とのふれあいができる場所 ～恩田川と斜面地を活かす～

北側の敷地の低い場所で、ビオトープや釣り堀を設けます。環境を育み、いつの日か、ホタルが生息したらいいなという夢も語られました。そのほかに、みんなで育てる畑を設け、斜面ではタケノコを育てます。ここで採れた食物をみんなで調理して食べたり、子ども食堂でふるまったりしたいという想いも語られました。

・遊具・健康器具ゾーン ～隣接する日向台公園も活用～

北側の敷地の低い場所と南側の敷地の高い場所の間にある斜面を活かしたアスレチック遊具や子どもに人気の複合遊具、高低差を活かし、恩田川を越えて日向台北公園までつながるジャンボ滑り台を設置します。1組に参加している小学生メンバーからも、「楽しい場所になりそう！」というお墨付きもいただきました。また、子どもだけでなく多世代が使える大人向けの健康器具も置いて、多くの世代をつなぐ場所にします。

・芝生広場 ～思い思いの使い方を～

南側の敷地の高い場所は、特定の競技をするためのものではなく、思い思いの使い方ができる広場に、時間によってはハイハイ歩きの赤ちゃんが使えたり、小中学生のボール遊びや少年野球ができるようにしたり、地域のお祭りなどの様々なイベントや手持ち花火もできる場所にします。

・コミュニティ施設 ～歴史をつなぐ場所～

正門を入れて左側に整備し、いろいろな使い方ができる場所にします。話し合いや趣味の練習などができる場所のほか、調理場やカフェスペースがあって、みんなで調理して食べたり、子ども食堂を開いたりできるようにします。ほかにも、展示スペースを設けて、町三小の窓ガラスや床材を展示・活用するほか、趣味の展示ができるようにし、町三小の歴史や地域をつなぐ場所にもしたいというもののや、外遊びで汚れた手足を洗える場所も設置したいという意見もありました。

さらに、敷地内を周遊できるウッドチップの散策路を設け、いまある各出入口から敷地を通り抜けもできるようにします。周辺にお住いのみなさんにとっても行き来が便利になり、この場所が地域をつなぐ場所になってほしいという思いが込められた提案です。

◇災害時への対策

災害に備え、浸水する可能性のある北側の敷地の低い場所には建物は設けず、マンホールトイレも南側の敷地の高い場所に整備します。コミュニティ施設内には災害備蓄倉庫を設けます。災害時には、各部屋を避難場所として活用しますが、もし避難者が多い場合には、芝生広場をテント避難場所として活用します。また、正門近くには、駐車場とともに地域の方の給水場所となるように整備する提案です。



一部の画像は、次のサイトからの画像を用いています。川崎市公園緑地事務所HP: <https://www.ginetsu.kawasaki.jp/> 町三小地域活動サポートオフィスHP: <http://m3chidai-support.org/>

2組

みんな集まれ！子ども・障がい者・老人みんなが楽しめる広場

◇全体の配置

南側の敷地の高い場所には「芝生のひろば」、北側の敷地の低い場所には「土のひろば」を設ける、2つのひろばを中心にした地形の特徴を活かした計画になりました。そして、ひろばに挟まれた斜面には遊具を設置し、正門近くには避難施設を兼ねた「みんなが多目的に使える建物」を配置する提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・芝生のひろば ～地域の人が集まれる場所～

南側の敷地が高い場所は、芝生に寝転がってお昼寝や星空観察ができる、ゆったりとした時間が過ごせるひろばです。「盆おどり」「お祭り」「花火」などの地域の行事やイベントもできる地域の人が集まれる場所にしていきます。北側の斜面に近いところには、健康器具やベンチを設けて、高齢者がくつろげる場所も用意しました。近くには季節を彩る花が咲く花だんを設置します。大人も子どもも日向ぼっこをしながら会話に花を咲かせている姿が目に見えます。

・土のひろば ～さまざまな活動ができる場所～

北側の敷地が低い場所は、キャッチボールなどの「ボール遊び」ができる活動的な場所にします。恩田川の水を活かして、ビオトープをつくり、地域の人々が水に親しむ場所になるように考えました。

・2つのひろばに挟まれた斜面 ～タケノコ！ハイジのブランコ！～

今ある竹林を活かして「タケノコ掘り」ができる場所をつくります。また、「コースター」「ぼうけん遊び場」「アスレチック」「ハイジのブランコ」などを用意。地形を活かして子どもたちが遊べる場所にします。空に飛び出しそうになるくらい大きなブランコづくりは、グループみんなが想像して盛り上がりました。

・正門近くに建物を配置 ～地域のつながり、支え合いの場所～

誰でも使えるキッチンを設置して、みんなで食事をしたり、子ども食堂を開いたり、子育ての支援もできるように工夫します。幼い子どもからお父さんお母さん、高齢者まで、みんなが多目的に使える地域のつながりや支えあいができる場所にしたいという意見が出ました。また、建物の一部に展望台を設置し、そこからどんな景色が見られるのかみんなで想像をふくらませました。

◇災害時への対策

災害時には正門近くに整備する建物を避難施設として活用します。そのため、建物近くに防災倉庫、マンホールトイレなど、避難時に必要になるもの一式を設置します。避難者が多い場合は、芝生のひろばをテント避難の場所としても活用します。高台にあることで水害時にも使用できる安全性と、非常時にも不便なく柔軟に使うことができる効率性を考えた提案になりました。



3組

自然に囲まれた環境を活かし、誰もが思い思いに過ごせる広場

◇全体の配置

敷地の高低差を活かし、北側の敷地の低い場所は、万が一浸水しても被害が少ない使い方として「運動などができる広場」、南側の敷地の高い場所は、広く見晴らしのよい空間なので「自由に使える芝生広場」を計画しました。そして、その間にある斜面地は「自然地形を活かした遊び場」、敷地の南西側にいろいろな使い方ができる「建物」、東側に「高齢者もくつろげる空間」を配置する提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・運動などができる広場 ～浸水による被害が少ない使い方～

バスケットゴールを設置し子ども達が自由に「バスケットボールを楽しめる場所」や、既設のアスファルト坂道などを利用すれば「スケートボード広場」にもなります。そして、芝生を活用すれば「ドッグラン」にもできると、アイデアが膨らみました。

・自由に使える芝生広場 ～大空間であることを活かす～

大空間であることを活かして、遊びに来た人が思い思いに利用できる場所になるようにと考えました。日常的には子ども達がサッカーや野球などのボール遊びができる空間や、町内会のお祭りなどのイベントに利用できるようにします。3組では、「地域の伝統的なお祭りを今後も継承していきたい！」と話が盛り上がりました。

・自然地形を活かした遊び場 ～こころ休まる場所～

広場の間にある斜面地には子ども達が大好きなすべり台やターザンロープなどを設えて、冒険遊び場のような遊びができる場所にします。また、本町田の色とりどりの花を植えて段々畑のような「段々花壇」にして、心休まる場所にもしていきたいという意見も挙げられていました。

・南西側に建物を配置 ～仕切りを利用して柔軟に広さを調整できる～

敷地の南西側に建物を配置します。室内を小さく仕切れるようにして「みんなの活動の場」、民間事業者による「個食配布と地域食堂の運営」、「子どもも使えるキッチン」などにします。仕切りを外せば、「みんなで集まれる場所」としても使用できます。また、「登れる屋上」にして、本町田地域を一望できる展望スポットにしたいと夢が広がっていました。

・高齢者もくつろげる空間 ～ゆったりと過ごせる場所～

敷地の東側には樹林地が隣接しており、夏も涼しい場所なので、砂地にして「ゲートボール場」を整備し、その側にベンチや健康器具を置いて、高齢者の方などがゆったりと過ごせる場所としました。同じように敷地のいろいろなところにベンチやフリーWi-Fiを設置し、高齢者も子どももみんながくつろげる場所をつくりたいという意見も挙げられていました。

◇災害時への対策

災害時には南西側に整備する建物を避難施設として利用します。物資を配る場所やキッチンを設置し炊出しの場所にするなど、避難機能の中核を担う場所になります。また、防災倉庫を建物内に配置し、マンホールトイレを建物の近くに移動させます。建物の隣の芝生広場には、避難者用テントを張る提案です。



一部の画像は、次のWebサイトの画像を引用しています。中野区 HP: <https://www.city.nakanishi.lg.jp/> 町田市地域活動サポートオフィス HP: <https://machida-support.or.jp/> 自然遊びの森 HP: <https://boson-nodaka.jp/>

（6）第3回 ワークショップ ～跡地活用プランを発表しよう！～

【日時】

2025年2月8日（土）

10:00～12:30

【会場】

町田第三小学校ランチルーム

【参加者】

14名

【プログラム】

○はじめに、本日のスケジュールの説明

○全体説明

・第2回ワークショップのふり返し

・本日のワークショップの進め方

○グループごとのワークショップ

テーマ1：町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

テーマ2：どう運営するか考えよう！

テーマ3：活用スタートまでに、何ができる？

○話し合いの成果の発表

○来年度以降の検討について

○集合写真

■活用プランに完成に向けた前回のふりかえり

第2回ワークショップの振り返りからスタート。前回は、第1回で話し合った「町三小の魅力」や「跡地で将来やってみたいこと」をもとに、跡地の活用プランを考えました。どの組も敷地南側を広場にして、西側に建物を配置するなど、敷地の使い方に共通する部分が多くありました。

その一方で、北側の低地部分や斜面の使い方は、各組それぞれの個性あふれる提案が出されていました。



全体説明の様子

■アイデアあふれるグループワーク



なごやかに意見を出し合って相談



前回のおさらいをしながらコンセプトを議論

①「町三小跡地の活用プランを仕上げよう！」、②「どう運営するか考えよう！」、③「活用スタートまでに、何ができる？」の3つのテーマでグループワークを行いました。

①では、第2回ワークショップで作成した活用プラン案を改めて見直し、必要に応じて修正を加え、最後にそれぞれの活用プランのコンセプト（タイトル）を決めました。

②では、完成させた活用プランを実際に運営するための方法を、「誰が」「どのように」「お金はどうするか」、の3つの視点で考えました。難しいテーマでしたが、全体説明で紹介した参考事例や、参加者のみなさんの知恵や情報からもヒントを得て、様々なアイデアが出されました。「施設をつくったら終わりではない」という意識が共有された時間になりました。

そして③では、跡地活用開始まで、最短でも5年間ある中で、自分たちができることは何かを考えました。

体験を通じて、世代を超えて『遊べる場』

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

1組は、隣接する日向台北公園も合わせた一体的な活用を考えました。高台から恩田川を越えるジャンボ滑り台を設け、南側の高台部分には自由広場と遊具、北側の低地部分には水と土遊びの場や畑を設け、体験をしながら、子どもから大人まで世代を超えて遊べる場所を作るプランです。

活用プランのコンセプトは、「体験を通じて、世代を超えて『遊べる場』。多世代が集い、遊べる活用プランとなりました。

第2回のワークショップの内容から、交流施設を恩田川沿いの斜面部分に移動し、高台の平地部分（自由広場）を最大限活用できるように修正しました。

自由広場は、芝生の養生期間も利用できるよう芝生だけでなく、ゴム舗装のエリアも作ることにしました。また、北側低地部分の畑は収穫祭をみんなで盛大にできるように広くしました。さらに、日向台北公園を本町田ひなた小学校に通うお子さんの送迎の待ち合わせ場所や利用者の駐車場として活用すること、駐輪場を各入口に設けることを考えました。



◇どう運営するか考えよう！ ～地域主体の新しいNPO 法人による運営～

地域の人たちが日常的に利用するためにも、地域が主体となって運営することがよいのではという声がありました。具体的には、NPO 法人を立ち上げ、町内会自治会や大学、地域住民、子ども・高齢者の見守り活動をしている地域の団体である町田第二地区協議会などの団体が構成員となる案が出ました。また、夜間の運営についても話題となり、24 時間開いていなくてもよく、夜間は施錠がされる形でよいと話し合いました。

さらに、運営費を集める方法として、自由広場のイベント利用や交流施設の会議室、調理室などの利用料を徴収すること、駐車場を有料化すること、畑の野菜が採れたら収穫祭を開催し収益を充てる案が出ました。

◇活用スタートまでに、何ができる？～子どもの声をもっと取り入れて、仲間を増やす～

1 組では、現役の町三小に通うお子さんも参加していたので、子どもならではの意見も出ていたものの、参加者の中からは「もっと多くの子どもの声を聞きたい！」という声も上がりました。学校の授業で町三小跡地のことを考えることや、子どもが多く参加する地域のイベント（盆踊りなど）でアンケートをするなど、より多くの子どもの声を取り入れたほうがよいという意見がありました。

また、場所の作り方や運営方法などを学ぶために、事例見学ツアーをしたいという意見や、防災キャンプとして実際にテントを張ってみたいという意見もありました。さらに、その実施は、将来的に施設を管理する人が開催することが望ましいという意見もあり、今後さらにより多くの人や団体を仲間にしながらか検討が進められることを期待し、グループワークを終えました。



ゆったり過ごそう みんなの居場所

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

2組は、南側の高台に「芝生のひろば」、西側に建物、北側の低地部分に「土のひろば」、西側に建物を配置するプランを考えました。

「芝生ひろば」は、訪れた人の使い方を限定しないこと、そして建物は老若男女問わずみんなの居場所となるような活用プラン。そのような思いを込め、活用プランのコンセプトは、「ゆったり過ごそう みんなの居場所」としました。多世代が揃った2組だからこそ、思いやりにあふれた活用プランが完成しました。



◇どう運営するか考えよう！ ～地域の人も、事業者も、市も、協働による運営～

誰が運営するかという視点では、「管理経験のある民間事業者」、「市」、「地域の人たちを中心としたNPO」の三者が意見として挙げられ、地域と民間事業者でNPO法人を組織し、市が運営を委託するという形式がよいのではないかという意見があげられました。また、デイサービスのような機能を導入するのであれば、社会福祉法人なども考えられるといった意見もありました。

誰か一者に管理運営を任せるのではなく、三者がお互いに役割を持ち、「権限」「管理」「意見」を明確にして運営することが大切という意見もあげられていました。民間事業者は、その強みを活かして資金を集め、地域は、地域住民を通じて利用者の声をフィードバックし、土地を所有する市が必要に応じてバックアップするといった体制で、協働による運営を目指すべきという意見です。参加者の方が「地域の代表として運営に加わってもよい」と立候補するなど、誰かに丸投げしないという考えにもとづいた、責任感あふれる提案となりました。

◇活用スタートまでに、何ができる？ ～学ぶ・発想する・やってみる～

主に「勉強」「アイデア出し」「体験してみる」の3つの方向性が意見から見えました。

まずは、運営組織をつくるための勉強会や他の施設・事例の見学会、避難施設機能の取り入れ方の勉強など、跡地活用に向けた準備としての「勉強」です。

「アイデア出し」は、跡地活用のスタートまで期間があることを活かし、子ども・子育て世代・高齢者のそれぞれが跡地でやりたいことを考え、広く意見を集めるという意見です。またその過程を通して、跡地活用の周知にもつなげていけるとよいねと話し合いました。

「体験してみる」こととしては、子どもたちに跡地を考えるきっかけづくりとして、町三小に通う子供たちの授業の一環でビオトープづくりをしてもらおうという意見がありました。子どもたちの思い出にもなり、跡地活用が始まってからも、ここに遊びに来る理由になるのではないかと盛り上がりました。

地域住民として責任感を持ちながら、みんなで跡地の未来を考えようという思いが感じられました。



3組

「あ！ここに行こう！」地域のいこいと交流の場：みんなのサードプレイス

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

3組は、南側の高台に「自由に使える芝生広場」、北側の低地部分に「運動等ができる広場」、西側に建物を配置するプランを考えました。

「建物の中に本町田の歴史・文化に触れる場所を！」、「芝生広場に子ども用の遊具を！」、「スポーツ大会も開催できる規格を確保！」などの提案を追加して、活用プランを充実させました。

子どもや高齢者、子育て中の親など多世代が「ここに来れば、誰かがいて安心できる、楽しい空間になればよいな」という思いを込めて『あ！ここに行こう！』地域のいこいと交流の場：みんなのサードプレイス」というコンセプトにしました。参加者の方のこれまでの経験などにもとづいた、思いの詰まったコンセプトになりました。



◇どう運営するか考えよう！ ～事業者・市が核となりながら地域サポートによる運営～

施設として運営していくためには、「やはりプロが仕事として携わるのがよいのではないか」と施設運営の経験のある参加者から意見があり、「市」「民間事業者」が中心となって担っていく方向性で意見交換を進めました。

ただ、プロに任せきりにするのではなく、地域には運営をサポートしてくれるボランティアの方もたくさんいるといった意見もあり、その方達にも関わっていただきながら、町内会・自治会や大学等も仲間に加え、運営委員会形式での運営がよいのではということで話がまとまりました。みんなの意見を取り入れながらよりよい方へ進んでいく、参加型の運営ができるとよいねと話をしました。

また、運営費を集める方法として、駐車場や会議室の利用料に加え、イベントや大会時などで場所を占有利用する際は、施設を持続的に運営するためにも、利用料を支払ってもらう仕組みがよいと思うが、その際、地域の方の利用は低額に、企業等の利用は高額にするなど利用者によって配慮が必要ということも話し合いました。

◇活用スタートまでに、何ができる？ ～事例見学・防災関連の取組み・プランの試行～

活用プランにある活用の「先行事例の見学」や災害用テントを組み立てて、火を起こして食事を作るなど、楽しみながら役立つ「防災イベント」を行うことなども意見としてあがりしました。また、みんなのやってみたいことを「実際に試行してみる」ことを通じて、課題や地域のニーズを把握し、活用に向け、案をブラッシュアップしていこうと盛り上がりしました。3組は大人中心のグループでしたが、普段から子ども達に関わっている方やスポーツ振興に力を入れている方、本町田の歴史に愛着がある方など、参加者の得意分野を活用プランに盛り込み、来年度への期待も込めて終了しました。



■活用プラン完成！ 総まとめの発表

全3回で考えてきたことの総まとめとして、活用プランを中心に各組の意見を発表しました。



■各組のファシリテーターからのコメント

1組

60年以上前に通っていたOBの方から、最後の卒業生になる現役小学生、地域の街づくりに携わる方と、様々な世代や背景の方と一緒に話し合いをしました。この場所が地域を繋ぐ大切な場所という共通認識を持ち、小学生の話にも皆で耳を傾け、次世代に引き継ぐ場所にしていきたい、地域の人に使ってほしいという想いが詰まったプランになりました。

2組

2組に集まった皆さんは、小学生、ママさん、働き盛りの方、人生の先輩の方、実に多様な方々でした。それでも意見交換は、和やかでありながら真剣で、地域のことを考えた提案になったと思います。提案タイトルの「ゆったり過ごそう みんなの居場所」は、まさに2組の特徴や思いを象徴していると思いました。

3組

3組は大人の方が中心のグループでしたが、普段から子ども達に関わっていらっしゃる方も多く、スポーツ振興に力を入れている方、本町田の歴史に愛着がある方など、各メンバーの得意分野がありました。活用プランには、そうした得意分野や経験等を活かしたアイデアを、たくさん盛り込みました。この町三小への思いは皆さん強く、来年度以降の期待も込めて終了しました。

■跡地の未来を一緒に考える、輪を広げる

各組の発表後、町田市政経部部長から「いずれの組からも、『地域のコミュニティ形成の場として活用したい』『子どもから高齢者まで、誰もが思い思いに使える場所としたい』という思いが伝わった」、各組の活用プランを今後、市が決めていく活用の方向性に参考にさせていただく旨の話をさせていただきました。

また、学校跡地における避難施設機能の考え方についても触れ、町三小跡地に求められる避難施設機能は、これまでとは役割が変わる可能性があり、学校跡地周辺の状況等も踏まえながら、市の考え方をしっかり整理していくことを参加者に伝えました。

さらには、「今後は町三小跡地の未来を考える仲間を増やし、輪を広げていきたい。市は今後も引き続き、みなさんと一緒に考えられる場を設けていくので、今回参加いただいたみなさんには今後も積極的に参加し続けて欲しい」とみなさんにお伝えし、話をしめくりました。



■みんなで考える跡地活用に向けて・・・来年度以降の町三小跡地活用

最後に、市の担当者から2025年度に「市で進めたいこと」と「地域のみなさまと一緒に検討したいこと」についてお話しました。

「市で進めたいこと」としては、参加者のみなさんが考えた各活用プランなどを参考にしながら、跡地活用のコンセプト等を検討していくことをお伝えしました。

また、「地域のみなさまと一緒に取組みたいこと」として、引き続き市民ワークショップを行っていくことに加え、町三小の周辺の地域を代表する方に跡地検討の内容の共有や活用に向けた意見交換を行う「町田第三小学校跡地活用連絡協議会」を設置、開催する予定である旨をお伝えしました。

来年度の再会を約束して、最後に参加者とスタッフみんなで集合写真を撮って、今年度のワークショップ終了となりました。

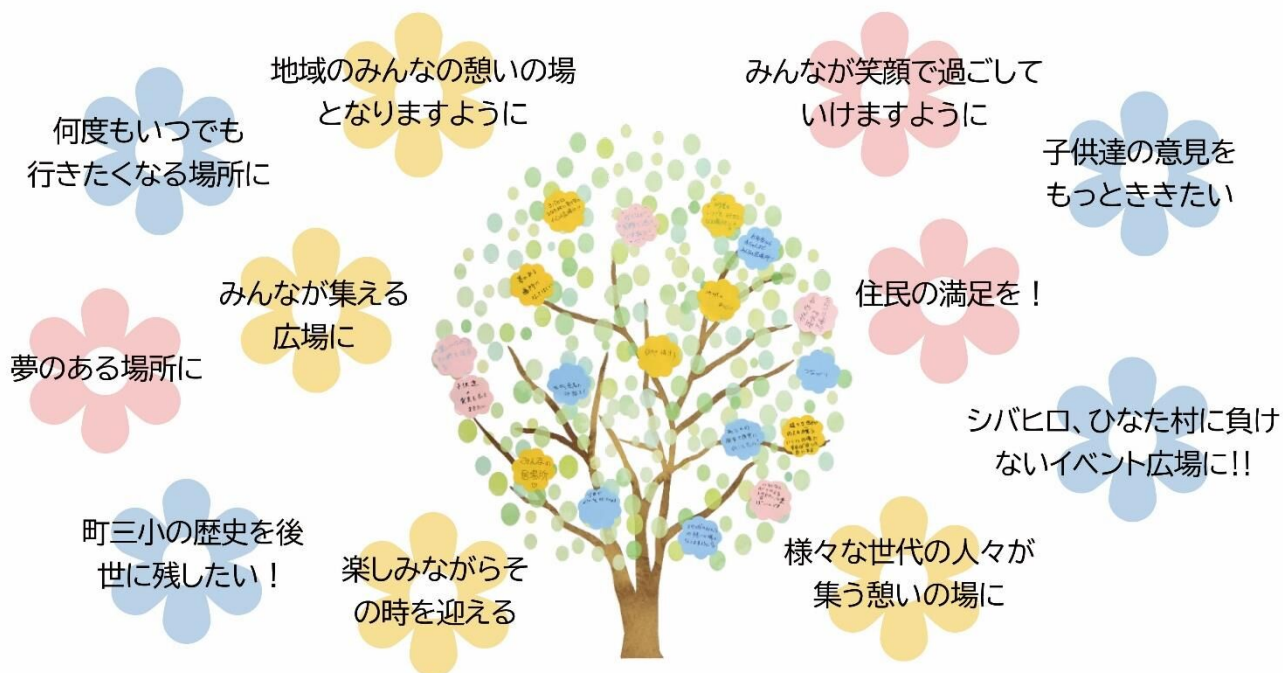


4. 町三小跡地活用に向けたメッセージ

町田第三小学校跡地活用への思いやワークショップに参加しての感想などを自由に記入いただき、メッセージツリーにしました。

花の形をした付箋に「夢のある場所になってほしい」、「お年寄りから赤ちゃんまでみんなの居場所!」、「畑で野菜を育てたい」など、思い思いのメッセージがつづられています。活用開始までまだ期間がありますが、多くの思い出が生まれてきたこの場所だからこそ、新たな思い出も作られる、

それぞれの思いを跡地活用にしっかりとつなげていけるよう、より多くの花を咲かせ、大切にしていきます。



5. アンケート結果

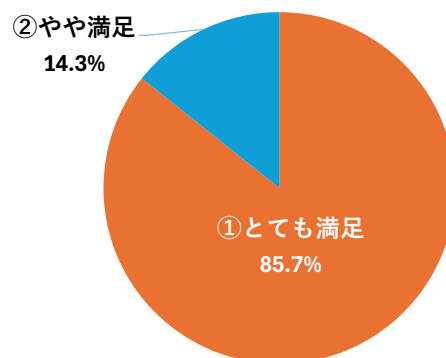
第3回ワークショップ終了後に、「町田第三小学校跡地活用ワークショップ」について、参加者に回答をいただいたアンケートの回答を以下に取りまとめました。

1. 全3回のワークショップに参加した感想

・「とても満足」が85.7%を占め最も多く、ついで「やや満足」(14.3%)でした。

項目		回答数
①	とても満足	12
②	やや満足	2
③	普通	0
④	少し不満	0
⑤	とても不満	0

1. ワークショップの満足度



2. ワークショップの実施時間

・「適切だった」が100.0%でした。

項目		回答数
①	適切だった	14
②	長かった	0
③	短かった	0

2. ワークショップの実施時間



3. 参加した感想

- ・様々な世代の方の意見も聞くことができ、大変参考になりました。
- ・色々な意見や提案を聞けて有意義だった。
- ・多くの前向きな意見が出て良かった。
- ・楽しくいろいろな意見がでました。自分のチームが一番いいのでは…と思う。
- ・自宅に面した小学校の跡地活用について自身の意見が発言できたことがうれしかった。
- ・出した意見が模造紙に書かれて嬉しかった。お父さんについて来ました。
- ・地域の方とお話ししたり、地域の良さを知ったりできて良かったです。三小の跡地がどの様になっていくのか楽しみです。
- ・地域の方、様々な年齢の方と交流できて良かったです。

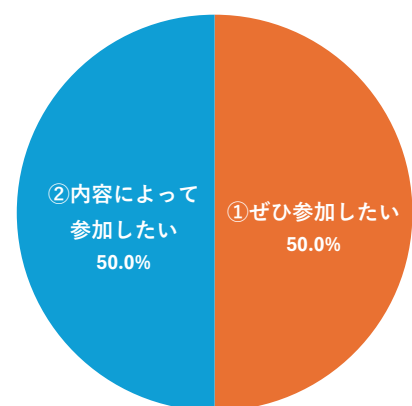
- ・毎回とても楽しく参加させていただきました。
- ・跡地の活用についてまじめに考える機会ができてよかったです。
- ・町三小の跡地利用の方法としてワークショップに参加できてよかった。
- ・子育て世代、学生の参加があればよかった。
- ・もっと色々な方が参加する場になれば良いと思います。とくに若い人（10代～30代くらい）
- ・他の地域のワークショップにも参加したい。
- ・進め方が素晴らしかった。次回のプランニングを期待したい。
- ・地域にスポーツのできる広場を残してほしい。

4. 来年度以降のワークショップへの参加

- ・「ぜひ参加したい」、「内容によって参加したい」がそれぞれ50.0%を占める。

項目		回答数
①	ぜひ参加したい	7
②	内容によって参加したい	7
③	参加したくない	0
④	わからない	0

4. 来年度以降の参加



【参加したい企画やイメージ】

- ・具体的なイメージを作るための勉強会など。
- ・他施設への見学や勉強会
- ・成功事例の見学や意見交換会などに参加したい。
- ・施設の見学会など。
- ・身をもって事例を知るのが具体的に考えられるので良いかと思いました。
- ・実際に学校跡地を活用しているところの訪問やヒアリング。
- ・実際にやってみる、フィールドワーク系。
- ・話し合いだけでなく、行動に移せることを多くやれたら良い。
- ・子どもと一緒に参加できるようなもの。
- ・テントで防災キャンプ等。
- ・イベントをやる！
- ・地域の意見が活かされるとよい。
- ・自分に案はないですが、どのような内容になるか興味があるので。

6. 各組の検討成果（学校跡地活用プランとイメージスケッチ）

■イメージスケッチ



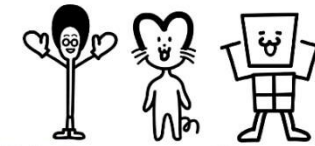
斜面の竹やぶを使って、みんなでタケノコ掘りを楽しもう！



みんなの畑で野菜を育てたら、みんなで採って、みんなで食べよう！

(2) 2組 ゆったり過ごそう みんなの居場所

2組 ゆったり過ごそう みんなの居場所



みんなの居場所

子ども・大人・高齢者みんなの居場所があり、様々な目的で使用でき、地域の繋がりや支え合いができる場所にしたい。



みんなが使うキッチン



子ども・高齢者の居場所



ひなんきのう

災害時には建物を避難施設とする。

みんなが使う

みんなが使える たてもの

ちいさ活動・交流の場



ひなんきのう

マンホールトイレや防災倉庫などを建物周辺に設置する。

・発電機
・非常用水栓
・食事の場所



花だん



季節を彩る花を楽しむ

ひなんきのう

災害時には、大小2種類の防災テントを設置できると良い。



日向台北公園

土のひろば

さまざまな活動ができる

たけのこ

しゃめんを活かして楽しむ

こうれいしゃ

花だん

ハイジのブランコ

芝生ひろば

ゆったり過ごせる

みんなで集まる 地域で繋がる

キャッチボールなどのボール遊びができ、恩田川の近くでは、ビオトープや川遊びで水に親しめるなど、さまざまな体験・活動ができる場所だと良い。



竹林でタケノコ掘りをしたり、斜面にアスレチック、斜面に飛び出すようなブランコを設置するなど、今ある特徴を活かして楽しみたい！



使用方法を限定しない

芝生に寝転がってお昼寝する、テントを広げてくつろぐ、高齢者が体操したり、花壇の花を愛でるなど、誰もがそれぞれの時間をゆったり過ごせる広場にしたい。また、盆踊りなど、地域の行事の際にはみんなが集まれる場所にしたい。

ゆったり過ごせるひろば

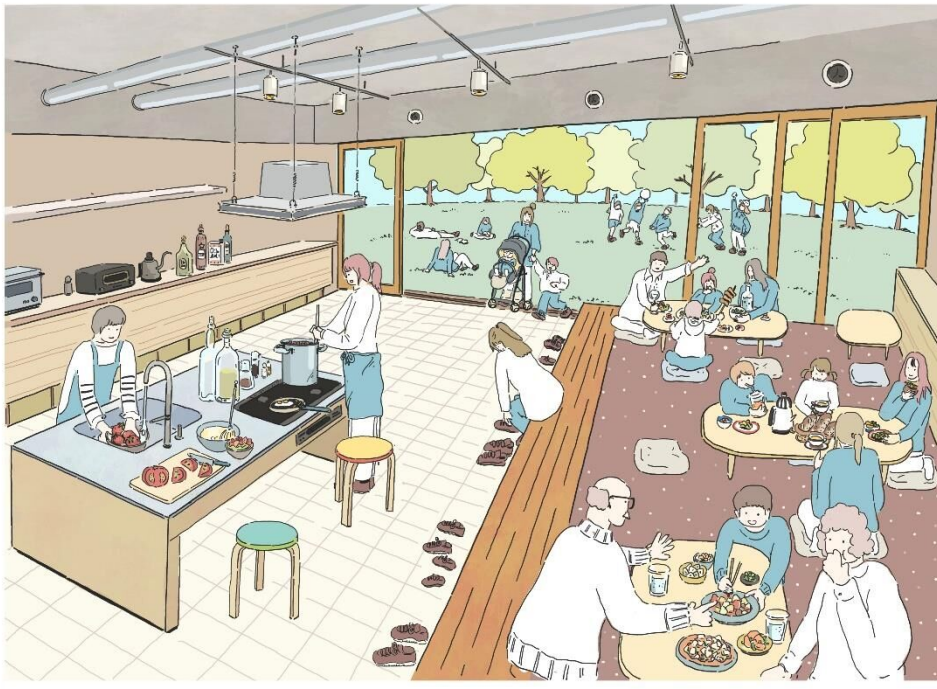


ちいさの行事・イベント



一部の画像は、次のWEBサイトの画像を用いています。 中野区 HP: <https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/> 町田市地域活動サポートオフィス HP: <https://machida-support.or.jp/> 冒険遊び場協会HP: <https://bouken-asobiba.org/>

■イメージスケッチ



みんなで使えるキッチンがあり食事也能るみんなの居場所



子どもから高齢者までみんながゆっくりすごせる芝生ひろば



(3) 3組 「あ！ここに行こう！」地域のいこいと交流の場～みんなのサードプレイス～

3組 「あ！ここに行こう！」地域のいこいと交流の場～みんなのサードプレイス～

自然地形を活かした遊び場・花畑

- ・自然が残っている斜面は、地形を活かして利用したい！
- ・子どもが大好きなターザンロープ、ジャンボ滑り台
- ・自然の中で遊ぶ冒険遊び場
- ・本町田の花を植えた段々花畑



冒険遊び場

ターザンロープ

ジャンボ滑り台

段々花畑

建物はみんなの活動の場

- ・普段は地域に開放された場所、災害時は災害活動拠点になる場所にしたい！
- ・建物内は、活動内容によって仕切りで広さを自由に変えられるようにしたい
- ・会議室
- ・子どもも使えるキッチン
- ・雨でも遊べるキッズエリア
- ・地域の歴史・文化に触れられるスペース
- ・民間事業者による地域への個食配布と地域食堂の運営
- ・登れる屋上は、展望スポット



活動・交流の場



地域食堂



展望台



マンホールトイレ

避難施設

- ・支援物資の集配場所
- ・高齢者等の避難場所
- ・キッチンで炊き出し
- ・防災倉庫
- ・マンホールトイレは建物近くに

北と南の2箇所に駐車場

- ・子ども連れ、障がいのある方等も利用しやすく

休憩スポット+散策路

- ・散策路沿いに、ベンチやフリーwi-fiを設置した休憩スポットをつくりたい！



ベンチで遊ぶ

運動などができる広場

- ・浸水による被害が少ない使い方として、運動ができる広場にしたい！
- ・バスケットゴールを設置して、3on3
- ・既設のアスファルトはスケボーパーク、花火もできるようにしたい
- ・芝生はドッグラン



スケートボード



ドッグラン



花火



バスケットゴール

広場

ドッグラン

遊び場

ターザンロープ滑り台

花畑

スケボーパーク★

ゲートボール場★

芝生広場★

遊具 (未就学児用)

ベンチ

眺望

眺望

高齢者もくつろげる空間

- ・木陰の涼しい空間は、子どもも高齢者もゆったりとすごせる場所にしたい！
- ・ゲートボール場の周りに、ベンチ、健康器具等を設置したい



ベンチで休む



ゲートボール クラウドゴルフ



うんてい



健康遊具

思い思いに自由に使える芝生広場

- ・大空間を活かして、遊びにきた人が自由に使える広場にしたい！

<日常利用>
アウトドアひろば



<イベント利用>
サッカー大会



ボール遊び



ピクニック



お祭り



フリーマーケット

避難施設

- ・災害時は防災テントを設営



テント

★：スポーツ大会利用もできる広さを確保したい

一部の画像は、次のWEBサイトの画像を用いています。中野区 HP: <https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/> 町田市地域活動サポートオフィス HP: <https://machida-support.or.jp/> 冒険遊び場協会HP: <https://bouken-asobiba.org>

■イメージスケッチ



子どもも大人も多世代が思い思いに過ごす室内のサードプレイス



夏には本町田地域のお祭りが開催される広場



